

1年次及び各専攻の履修にあたって

◎ 1年次の履修にあたって

授業の履修にあたっては、「教養共通科目」と「専門科目」を4年間でバランス良く計画的に履修することが肝要であるが、ここでは主に専門科目の履修について説明する。

人文学科の専攻分けは、2年次に行なうため、それまでに進みたい専攻を吟味してほしい。1年次の必修科目「現代教養概論」では、「現代教養」として考えて欲しいことや、「人文学」という学問のあり方を、担当する各教員が順に説いていくので、大学での学びを充実させるために、授業、及び、自身とに、しっかりと向き合って考えて欲しい。また、選択必修の「概論」はいずれも、各分野の学問の体系的な基礎であるため、自分が進む専攻科目については、1・2年次のうちに受講して欲しい。専攻指定以外の「概論」も学問の幅を広げるために履修するとよい（受講学年は問わない）。

また、「基礎学」は、人文学の基礎的専門技術を身につけるために設置している。そのため、専門分野へ進む前の受講が望ましい。その他の科目の履修については、以下の各専攻の説明を参照されたい。

なお、大学での知識は、講義のみによって受動的に得られるものではないことに注意を喚起しておきたい。演習等での積極的な発表や議論を通じて、社会に出てから有用な力を身につけることができるだろう。また、学部研究室や図書館を活用して、授業に限定されない知識を得られるよう努力してもらいたい。

◎ 日本文学専攻の履修にあたって

日本文学は、上代から近現代に至るまでの、日本語で書かれた文学作品を研究対象とする。上代とはおよそ奈良時代、中古は平安期にあたり、中世は鎌倉・南北朝・室町時代であり、近世は江戸時代、近現代は西欧化が進められた明治期から現代までである。この広範な時代にわたって蓄積されてきた我が国の文学は、当然ながらその折々の時代背景や時代状況——たとえば、政治・社会・文化など——と不可分な関係性の上に成立しており、単に日本語で書かれた「テクスト」という観点からの研究だけでなく、その作品を取り巻く文化研究の対象として探求することも可能である。その際には、文学作品だけに目を向けるのではなく、外国文学や言語学、歴史学、社会学、民俗学などの隣接諸学にも目を配り、日本文学に対する視野を広げることが望ましい。

また、日本文学が日本語によって表現された言語芸術であることから、日本語という〈ことば〉の歴史的な変遷をたどり、その奥深さを味わうこともできる。われわれが日頃何気なく用いている〈ことば〉には、実は日本の文化や歴史が凝縮されている。そうした〈ことば〉を、丁寧に、精緻に読み解き、学んでいくことによって、やがては自己と向き合い、自己を再確認していくことになるだろう。日本文学には、「人間」と「社会」、「生」と「死」など、「生」における根本命題が内包されている。このことから、本専攻は人間存在を追究するような姿勢で取り組んでいただきたい。

日本文学を歴史的に研究するか、同時代の外国文学と照らし合わせながら比較文学として研究するか、〈ことば〉として研究するか、日本文学はさまざまな観点からのアプローチが可能である。よって履修に迷うかもしれないが、1・2年次には「基礎演習」「基礎学」「現代教養概論」「日本文学概論」「国語学概論」など、多角的な視点から日本文学を学び、3・4年次の「人文学演習」では2年間をかけて、各自が選んだ専門領域を深く研究することができるよう、幅広い受講科目が用意されている。ことに、各年次の「演習」では、それぞれの教員から個人的な指導を受け、研究のみならず、学生生活全般についても適切な助言を得ることができるように配慮されている。

また、本専攻では、中学校教諭「国語」「社会」や高等学校教諭「国語」「地理歴史」

の教員免許状、学芸員（資格）などを取得することもできる。ただし、取得にあたっては、専門的な知識が必要となる一方で、他者への積極的な働きかけやコミュニケーション能力も重要となる。主体的に学び、自らの言葉で表現し、伝える力を養ってほしい。

◎ 歴史文化専攻の履修にあたって

歴史を見つめることは、社会と人間の関係や、そこでの生き様を学ぶことである。したがって本専攻では、単に現象としての歴史にとらわれることなく、時代社会に相應する人間への視点を考究していきたい。その場合、対象時代を選ぶだけではなく、社会学、哲学、宗教学、文学といった人間の根本的課題を歴史的な視座において捉えていくよう心がけて欲しい。すなわち、「人間そのものとしての在り方」について考え、「人間が生み出した文化（歴史文化）」を討究することにもなる。

歴史は「過去の人々が残したもの」＝「資史料」を紐解くことで明らかになってくる。歴史学では、資史料に向き合い、その真偽を十分に吟味・検討する力を鍛えることが必要である。多くの情報が溢れ、その情報を簡単に入手できるようになってきた現代社会において、情報を十分吟味する力は有効なアプローチとなるはずである。

また履修生は、博物館展示や現地踏査といった実践的な課題に積極的にかかわっていくような意欲をもって望んで欲しい。実物を間近に観察し、現地を訪ねることは、学びを具体化し体験的に知識を高めていくために大切な要素である。

専攻の選択は2年次に行なうが、歴史文化専攻に進む意思がある人は、1年次で「歴史文化概論」を履修することが望ましい。「歴史文化概論」や「基礎演習」、「基礎学」において、歴史学の基礎知識や、史料を読み研究するための基礎的な技術を身につけていってもらいたいからである。また、「日本史概説」「外国史（西洋）」「外国史（東洋）」など、歴史の概説的な知識を得るための授業も、1・2年次から受講することが望ましい。

史料や文献を読む力を本格的に身につけていくための科目としては、「講読演習」（2年次以上）が多分野にわたって開講されているので、自分が学びたい、研究したい内容に近い分野を含めて受講することを勧める。そして、2年次後期には、各自がどの地域のどのような歴史事象を研究対象とするかを考えて「基礎演習」を選択することになる。

3・4年次の「人文学演習」では、「卒業論文」に取り組んでいく。自分の研究対象からテーマを絞り、自ら問いを立て、史料・文献を吟味し、自身の見解と合わせながら問いに対して答えを導き出すことが求められる。どんなに小さなことであっても、自分自身の考えを創り出すことができれば、大学受験のための「暗記の歴史」の域を出た「歴史学」を学んだことの証明になる。そしてその中で「人間とは何か」ということをたえず問い続けて欲しい。

また、本専攻では、中学校教諭「国語」「社会」や高等学校教諭「国語」「地理歴史」の教員免許状、学芸員（資格）などを取得することもできる。専門的な知識が必要とされる一方で、いずれも他者への積極的な働きかけが必要とされる資格・職業である。主体的に学び、自らの言葉で表現し、伝える力を養うことが大切である。

◎ 現代教養専攻の履修にあたって

本専攻では、西洋文学や中国文学など東西に渡る諸外国の文学や、思想・文化を研究対象とする。具体的には、英米文学、西洋思想、中国文学など、特定の地域や時代について深く探究するとともに、さらに諸外国の歴史・思想・文化・美術・芸能・現代事情などを学ぶ。この多様なテーマに対応できるよう、多彩な講義や演習が用意されており、履修生の興味や関心に応じて学ぶことができるように配慮されている。

諸外国の文学や文化を学ぶことは、翻って日本という国家の問題だけでなく、自分自身をも客観的に見つめ直すことに繋がることになるであろう。また、グローバルゼーシ

ヨン一越境的な拡大と共時性が、きわめて短期間の間に生産され、共有され、そして消費される時代—といわれる現代社会においては、これまでの人類の歴史の中で積み重ねられてきた諸外国の多様なものの見方、考え方、価値観などの総体を学び、異文化・多文化の共生する社会に対応できることが求められている。

そうした社会変化の激しい流動的な現代社会を見据えて、本専攻では、自己の位置づけを確認していく力や、行動の基準とそれを支える価値観を構築するために、「欧州文化史」「中国現代事情」「漢文基礎学」「地域文化論」「サブカルチャー論」「文化人類学」など、多彩な科目を受講することによって、各自のテーマを見つけていくことが望まれる。もちろん、容易にテーマを見いだせない学生もいるだろう。そのために、1年次から「基礎演習」を設けてアカデミック・アドバイザーとなる教員を配当し、学生諸君のさまざまな不安や悩みに耳を傾け、個々の関心や可能性を引き出していくためのアカデミック・アドバイザー制度が用意されている。2年次からは、より専門的な「基礎演習」や「概論」、「講読演習」や「各論」の講義を通して、それまで漠然としていた個々のテーマをより具体的な方向へと導いていく。3年次になると「人文学演習」での取り組みを中心に、専門的な授業によって、大学生活の集大成となる「卒業論文」を作成することになる。

また、本専攻では、中学校教諭「国語」「社会」や高等学校教諭「国語」「地理歴史」の教員免許状、学芸員（資格）などを取得することもできるので、幅広い講義を横断的に受講しながら、自分の選んだ専門分野の研究を通して、考える力、伝える力を修得してほしい。また、「海外語学研修」や「海外文化研修」に参加することも大いに推奨する。多様な価値観が共存するグローバルな現代社会を捉え、混迷する現代を健やかに生き抜く力として、真の教養力を磨いてもらいたい。

同朋大学履修体系図（人文学科）

学年	学科専攻科目		ゼミ	教養共通科目	
	4 年次	<p>【卒論課題】 論文指導、 卒業論文、卒業課題</p>		<p>【演習（ゼミ）④】 人文学演習Ⅲ、Ⅳ</p>	
3 年次			<p>【演習（ゼミ）③】 人文学演習Ⅰ、Ⅱ</p>		<p>【インターンシップ】 Ⅰ～Ⅳ</p> <p>【キャリア教育③】 キャリア開発の実践</p>
2 年次	<p>【講読演習】 人文学講読演習 Ⅰ～Ⅳ</p>	<p>【基礎学】 漢文基礎学Ⅰ、Ⅱ 古文書基礎学 書誌学 サンスクリット語基礎学Ⅰ、Ⅱ パーリ語基礎学Ⅰ、Ⅱ 人文情報学</p> <p>【表現技法】 文章表現（文芸表現） 文章表現（論述表現） 文章表現（シナリオ） 書道</p>	<p>【演習（ゼミ）②】 基礎演習Ⅲ、Ⅳ</p>	<p>【国際】 海外語学研修 海外文化研修</p>	<p>【キャリア教育②】 キャリア開発の展開</p>
1 年次	<p>【講義】 <必修、選択必修> 現代教養概論Ⅰ、Ⅱ 日本文学概論Ⅰ、Ⅱ 欧州文学概論Ⅰ、Ⅱ 中国文学概論Ⅰ、Ⅱ 歴史文化概論Ⅰ、Ⅱ 国語学概論Ⅰ、Ⅱ 言語学概論Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【講義】 国語法、音声学、日本文学史、 日本文学、日本語体論、日 本文化史、中国思想、欧州文 化史、インド文化、アジア文 化、仏教史、日本史概説、 ジェンダー論、地域文化論、 サブカルチャー論、他</p>	<p>【演習（ゼミ）①】 基礎演習Ⅰ、Ⅱ</p>	<p>【教養】 【総合】 【名古屋・中村学】 【スポーツ】 【情報】</p>	<p>【宗教科目】 宗教と人間 （釈尊と現代） 宗教と人間 （親鸞と現代）</p> <p>【外国語】 <選択必修> 英語 5、6 フランス語 1、2 ドイツ語 1、2 中国語 1、2 ハングル 1、2</p> <p>【外国語】 <必修> 英語 1、2 英語 3、4</p> <p>【キャリア教育①】 キャリア開発の基礎</p>